

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500228		
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホームソラスト流山		
所在地	千葉県流山市名都借1068-2 2F		
自己評価作成日	令和1年 12月25日	評価結果市町村受理日	令和2年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和2年 1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「こころ・からだ・環境」に寄り沿う。 ソラストのスタッフは、一人ひとりの個性を尊重すると共に、その日その時の状態に応じた最適なサポートのあり方を見極めます。大事なものは、ご本人の生きる力を信じ、ご自身で「何ができるか」という視点。出来た時の喜びを共有することがスタッフの一番の楽しみです。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「こころ・体・環境に寄り添う」という理念を職員間で共有し、利用者のできることを生かしながら、役割をもって生活できるような支援に努めており、利用者が安心して楽しく生活できるように取り組んでいる。法人は社員専用のeラーニングによる学びの仕組みやキャリアアップ制度を採り入れ、職員の育成、サービスの向上に繋げるように努めている。また、地域の催しには利用者と職員が積極的に参加して、地域交流に努めている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念については、誰もが目で見て確認できるように休憩室に掲示している。日々の業務のなかで、入居者様自身のその人らしさを一番に考えて業務に取り組んでいる。	ホームの理念は毎月おこなう全体会議で共有し、日々の業務に繋げるために、常に目につく事務室に掲示している。利用者一人ひとりの力を日常生活に活かしながら、楽しく過ごせるように地域との関わりも意識しながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は入居者様の入れ替わり等があり、ままならないが、地域で主催しているクリスマス演奏会に入居者様と参加した。	自治会に加入しており、地域の清掃活動やクリスマス演奏会に利用者と一緒に参加するなど、地域とのつながりを深めるようになっている。また、近隣の公園に散歩に出かけた時には近隣住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度に比べ、運営推進会議は定期的に行っている。会議内で出た、助言等は前向きに検討し、即実行するように心がけている。	運営推進会議は利用者家族、市職員、地域包括支援センター職員などが参加して、年6回開催している。家族などからも意見や質問が出ており、サービスの向上に活かしていると思われる。	地域からの参加を得られるように、さらなる工夫が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上での問題点や不明点は常に電話や訪問し相談している。事故等があった際もすぐに相談し報告書を提出している。協力関係の構築は出来ており安心して施設運営が出来ている。	日頃から地域包括支援センターや市の担当課に相談や報告をしており、時には助言を受けることもある。また、市主催のグループホーム連絡会に参加し情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に数回の研修を実施しており、身体拘束について誰しものがしてはいけない事、方が一しなくてはいけない状況や対応方法は理解している。玄関の施錠に関しては流山市で確認し施錠しているが、ご入居者様が外に出たいとお話された際はすぐに出れるようにしている。	身体拘束適正化のための指針を作成し、定期的に研修を実施し、全職員が共有できるようにしている。研修に参加できない職員には伝達研修を実施している。また、身体拘束適正化委員会は運営推進会議と同時開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に所内研修の実施をしている。また、会社の研修制度を利用し、所内研修とは別途の自己学習を行っている。虐待等が疑われる際には関係各所への連絡を速やかに行うように職員に話している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度についての研修に参加している。実際に活用する機会はないが、そのようなケースが発生した際には、慎重に対応していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には十分に実調を行い、双方が納得のもと、重要事項説明書を用いて説明をし、契約を行っている。解約時は契約時よりも慎重に対応している。改定時等は変更契約書を作成し、説明を行いご納得頂いてから署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が常時来訪される環境にあり、職員は近況報告をし、ご家族のご意見も聞いている。聞いた内容は全職員で共有を行い、対応すべき事項についてはケアプランに反映する。外部者へ表すことは主に運営推進会議にて行っている。	家族の意見は運営推進会議や来訪時、電話などで聞き取り、職員間で共有している。内容は記録し、支援に反映するよう努めている。毎月請求書送付時に個別の報告書を同封して、家族の意見を引き出すようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のサービス会議実施時に、入居者様のカンファレンスを実施している。その際に職員からの意見も聞いている。職員との面談も実施し、職員参加型、職員主導による運営をしている。	毎月のサービス会議で職員の意見を聞き取っている。また、面談時にも要望等を聞くようにしており、意見などについては検討して反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ソラスクールの制度も職員で活用し、PCやスマホでの自己学習の機会も会社として設けている。また、キャリアアップ・ソラストポイント制度を設けて得る為、スキルアップできる環境は整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社主催で、各種研修等を行っている。また、新人職員にはエルダー（相談役）制度を設けている。事業所では毎月職員で構成された研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	流山市GH連絡会へ参加し、他のGH管理者と意見交換を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の入居者様に対してはご家族とケアマネから出来るだけ多くの情報を頂くようにしている。ご本人が安心して生活できるよう、表情や言動を注意深く観察しながら職員全員が信頼関係を構築できる体制づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人やご家族との信頼関係構築の為、密に情報交換を行うようにしている。特に施設側から積極的にご様子を報告するようしており、ご家族が抱えている不安感や入居に伴う葛藤など解消できるように良い関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族を交えた実地調査を行い、ご本人がソラストの環境になじみ、安心して生活が送れるかを見極め、状況によっては、より適したサービスを紹介するなどの支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場であることを職員全員が認識し、家族の一員であるような暖かく安心できる関係づくりの構築を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも来訪しやすい環境づくりを意識している。気軽に外出したり、居室内で面会することができ、家族との絆を感じることが出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の状態に応じて、ご家族の協力も得て、以前から行っていた趣味活動や外出支援を通じて住み慣れた環境での生活の継続に努めている。	これまでの生活歴を把握し、利用者本人が望む生活を大切にしている。友人の来訪を歓迎し、家族と一緒に正月を過ごしたり、お墓参りや行きつけの美容院に行くなど、できる限りの馴染みの関係を継続できるよう、家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの配置や雰囲気づくりに共同生活の場であることを意識している。併設のサービスへのレクリエーションやイベントの機会を設けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族との関係を継続できるように、退去後も連絡を取ったりしている。また、相談があった時には、丁寧な対応を心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とご家族の希望、これまでの生活歴に合わせて家で過ごしていた時と同じような生活が出来る限り継続できるような支援に努めている。	これまでの生活歴のほか、日々の生活の中で把握した一人ひとりの思いや意向を職員間で共有し、支援に反映できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とご家族からこれまでの生活歴を出来るだけ詳しくお聞きし、今までと変わらず生活が送れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中の細かい変化を、介護記録に記載し、職員間で共有している。必要に応じてカンファレンスを開催し、現状の把握と変化への対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一か月に一回のサービス会議時にカンファレンスを行っている。また必要に応じて随時カンファレンスをを行い、ご家族の来所時には現状を報告し希望を確認したうえで現状に即した介護計画を作成できるように努めている。	職員の意見や個人記録、家族などの意向を踏まえ、ケアマネジャーが介護計画を作成している。また、毎月実施しているカンファレンスで一人ひとりの状況について話し合い、意見交換をして見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの変化もケア記録に記載し、職員全員への共有化を図っている。全職員で状態変化の把握できる環境づくりを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージを利用するなど、その時のご本人の状況に応じてサービス提供が行えるように努めている。また、福祉用具の業者とも密に連携を図っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	体調の良い日には外出・外出に出掛ける方、高齢で認知症という疾患を抱えていても馴染みのある地域との繋がりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携をとり24時間体制で相談できる体制が出来ている。近隣のクリニックを提携医療機関としており、往診以外にも外来でレントゲン検査等が出来る対応となっている。	利用者や家族の同意のもと、ホームの協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関は24時間体制で対応してくれ、さまざまな相談もできる関係性がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間オンコール対応の自社NSがあり、週に複数回、健康観察と健康相談を行っている。正確な情報をもとに受診が受けられるような体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、出来る限り早く退院が出来るよう家族と病院担当者と連携を取り、情報交換に努めている。必要に応じて家族を交えた担当者会議に職員が参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけの医療機関と密に連携を取っている。看護職員より介護職員に情報共有や指示をし、落ち着いて最後に向き合いながら取り組むことが出来ている。ご本人はもちろん、ご家族の揺れ動く心情等のフォローに特に気を配っている。	入居時に「看取り介護についての同意書」で説明し、その後も終末期のあり方についての意思確認をおこなっている。終末期を迎えた場合は「看取り介護についての同意書」で確認したうえで、多職種が連携して支援にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所内研修にて、緊急時の応急手当・初期対応の訓練を行っている。緊急時のマニュアルを掲示することで有事の際の体制作りを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練で日中帯、夜間帯どちらも想定した訓練を行っており、全職員が有事の際の対応を身に着けることが出来るように努めている。地域との協力体制は十分に取れていなかったが、今後は隣接する福祉施設との連携を検討している。	避難訓練は夜間想定についてもおこなっている。連絡網を整備し、非常時の一斉メールが送れるようにしている。今後は地域との協力体制構築や他事業所との連携を考えている。	先般の風水害は想定外の被災を各地にもたらした。長期の停電や断水なども想定して検討することが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的なあたたかい雰囲気でありながら、接遇の徹底を目指している。ご利用者様の人格を常に尊重することを心がけている。	利用者はさん付けで呼ぶ、入室の際はノックをするなどの基本的なことを大切にしている。また、写真など個人情報の取り扱いについては予め同意をもらうようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員や施設の都合で対象者の生活を決めるのではなく、常に入居者様がどのようにしたいのか決めて頂けるような支援を行っている。その人らしさを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の趣味嗜好等を把握し、無理強いするのではなく各々のペースに沿って穏やかに安心して過ごして頂けるような支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時にはいつもと違う装いをするなどの配慮をしている。メリハリのある生活をするためにも外出は大切だと感じている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	能力のある方にはテーブル拭きや配膳・片づけを手伝って頂いている。嗜好を考慮しながらも嫌いな食材は代替して提供などの考慮している。	訪問時は、職員と利用者が和やかに会話したり、利用者が片付けを手伝う様子が見られた。味付けを少し変えてみる、パンの日をつくる、ドライブで外食に行くなど、変化を付けて食事が楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医と連携を取りながら、十分な食事が摂取出来ない方には、栄養補助食を提供したりと、栄養や水分量が確保できるように支援している。歯科医とも連携を密にとり、残存する機能に応じた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分の歯(義歯含む)で食事が出来るように支援している。食事後には口腔ケアを確実に実施し、誤嚥性肺炎の予防にも努めている。適宜、歯科医師による診察や指導も受けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人一人の排泄パターンを把握し、できる限り、ご自身でトイレで排泄が出来るように支援している。	運動、食事、水分量など一人ひとりの状態を把握したうえで、排泄についても自立に向けて、あるいは自立した状態が継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を観察し、下剤をコントロールし、排便コントロールを行っている。毎日の体操などの運動の励行、食事・水分量が適当であるか気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り、ご本人の希望に沿い入浴支援を行えるように努めている。介護度が重くなくても入浴を行えるようにシャワーキャリーを導入し対応している。	週2回の入浴を基本としているが、希望に応じて、それ以上であっても、できるだけ対応している。シャワーキャリーの導入に続き、併設の事業所と共用で機械浴の導入を進めており、重度化しても湯船に浸かれるようにしたいと考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医と密に連携し、安心して眠れるように支援している。1年を通じてリビングや居室の温度・湿度に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時には、連絡ノートへ記載し全職員への共有を図っている。薬の変更後は様子を細かく記録に記載しどのような変化が見られているのかを医師に伝えられるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品はご家族が用意して下さっている。料理などの生活歴に応じたレクリエーションも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と協力し、可能な限り外出できるように努めている。入居者様が全員参加できるように外出レクを計画し実行している。今後はご家族も参加してのレクも検討している。	天気のよい日は、近隣の公園に散歩に出かけている。毎日全員で外出することは難しいが、個別に買い物に出かけるなどしている。また、レクリエーションとして外食にも出かけている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを未然に防ぐため、金銭の所持に関する支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があれば、自由に電話や手紙のやり取りができるような体制は取っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全には配慮しながらも、季節感を感じられる装飾を実施している。居心地の良い環境づくりに努めている。	共用空間は明るく、清潔である。白が基調であるが、モビールや壁飾りでアクセントをつけている。また、壁には時計やカレンダーをかけて、見当識障害の改善を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースへソファを用意し気分に合わせて思い思いに過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具を必要に応じて持ち込んで頂いている。居室環境の整頓にも努めている。	慣れ親しんだ家具などを持って来てもらい、自分らしい居室になるように支援している。居室の清掃や整理は居室担当職員と利用者が一緒におこなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路の導線上に障害物を置かないように徹底し安全に自立して過ごせるように支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所